

東京災害ボランティアネットワーク

2016年度総会議案書

日時:2016年7月2日(土) 13:30~15:00
場所:東京ボランティア・市民活動センター会議室

議案提案・審議内容

■2015年度活動報告	P02
■2015年度会計報告	P16
■2015年度監査報告	P18
■2016年度活動計画(案)	P19
■2016年度予算(案)	P23
■2016年度役員体制(案)	P24

<首都圏大災害に向けた具体的な対応策の検討>

今後30年間に70%の確率で発生するといわれている首都直下地震をはじめ、首都圏での大災害を想定した被災者支援活動の具体的な対応策について、「東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議」の幹事団体として、またこれまで被災者支援活動を実践してきたネットワークとして、関係の各団体と連携しながら検討をしてきました。

■東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議での取り組み

2014年7月に設立した東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議の幹事団体として、アクションプランの推進に積極的に関わっていきました。

<アクションプランにもとづく取り組み>

①被災者支援・ネットワーク調整事業、②災害VC設置・運営支援事業、③被災情報・支援情報の収集と発信事業、④人材育成事業と、アクションプラン通り4つのカテゴリで取り組みを進めていきます。全ての事業において、アクションプラン推進会議の幹事団体(それぞれのネットワーク参加団体含む)や全体会参加団体、または地域の市区町村社協や関係のあるNPO・NGO団体と協働で実施することで、アクションプランが見据える災害時の被災者支援につながる関係づくりを進めていきました。

◇アクションプランにもとづく主な取り組み

①被災者支援・ネットワーク調整事業

◆NPO・NGO担当ブロック制:都内3つの地区でNPO・NGOと社協ブロックが情報交換できる場を設けた。

<実施地区>:城北ブロック(北区、台東区、荒川区、文京区)、城東ブロック(足立区、江戸川区、墨田区、葛飾区、江東区)、北西ブロック(立川市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市、昭島市)

◆都の他部局との情報交換会の開催

東京都災害ボランティアセンターの設置主体である東京都と東京ボランティア・市民活動センターによる意見交換会を実施(2015年10月15日)。この意見交換会にアクションプラン推進会議の幹事団体としてオブザーバー参加。

②災害VC設置・運営支援事業

◆「災害ボランティアセンター設置・運営のヒント」の普及

2014年度に作成した小冊子「災害ボランティアセンター設置・運営のヒント」を都内の区市町村ボランティアセンターを中心に360冊配布。2016年1月25日にこの冊子を使用した講座を実施。

◆メールマガジン「災害ボランティアNews東京」の配信(1回/月:計12回)

◆ブロック情報交換会の開催(被災者支援・ネットワーク調整事業として実施)

③被災情報・支援情報の収集と発信事業

◆2014年度に作成した小冊子「災害ボランティアセンターにおける広報ガイドライン」の普及を実施

◆災害VC広報担当研修の実施:2016年3月18日

④人材育成事業

◆講座や訓練と通したブロック内外の団体連携:講座を協働形式で実施

◆東京都災害VC訓練の実施:2015年9月1日東京都・立川市合同総合防災訓練で実施

◆首都直下地震時の災害ボランティア活動連携訓練の実施

日時:2016年2月29日 場所:東京都消費生活総合センター会議室

参加:プレイヤー38名、見学者69名、主催者運営等21名

※なお、この連携訓練を実施するにあたり、ワーキンググループを設置し、訓練の企画・運営をおこなっ

た。ワーキンググループの会義は2015年9月から計7回実施。

◆勉強会の実施

2015年05月28日 東京都生協連の災害時の取り組み(都との物資協定について)

2015年07月23日 災害と男女共同参画(基礎情報と被災者支援の観点から)

2015年11月17日 東日本大震災における広域避難者について

2016年02月16日 日本赤十字社東京都支部の取り組みについて

＜アクションプラン推進会議 全体会/幹事会の開催＞

アクションプランを推進するにあたり、事業推進のための情報収集、事業の推進状況の共有等を図るため、アクションプランに賛同する団体/協力いただいている団体を対象とした全体会を、アクションプラン推進会議幹事団体を対象とした幹事会を開催しました。

- ◇全体会の開催： 第一回：2015.05.28 2014年度活動報告/2015年度活動計画について等
第二回：2015.07.23 東京都・立川市合同総合防災訓練について、東京都災害VC概要
作りのための調査について、組織財政に関するヒアリングについて等
第三回：2015.11.17 東京都・立川市合同総合防災訓練振り返り、連携訓練の進捗確認等
第四回：2016.02.16 連携訓練の確認、東京都図上訓練の報告、都とTVACの意見交換
会報告等

- ◇幹事会の開催： 第一回：2015.04.22 2014年度活動報告/2015年度活動計画について等
第二回：2015.06.19 東京都・立川市合同総合防災訓練について等
第三回：2015.08.18 東京都・立川市合同総合防災訓練について等
第四回：2015.10.01 東京都・立川市合同総合防災訓練について、連携訓練について等
第五回：2016.01.26 連携訓練について等
第六回：2016.03.04 連携訓練振り返り、来年度の活動について等

＜その他の取り組み＞

東京都災害ボランティアセンター運営マニュアルの見直し、アクションプラン推進会議の運営体制の検討等について、2015年度は、事務局であるTVACが、幹事団体(JPF、JANIC、JC東京ブロック協議会、東京都生協連、東社協区市町村社協部会、東災ボ)や関係団体(SVA、JVOAD準備会、宮城県社協、静岡県・静岡県ボランティア協会)へのヒアリングを実施。

＜アクションプラン推進会議の概要＞

名称：東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議

事務局：東京ボランティア・市民活動センター

幹事団体(7団体)

：国際協力NGOセンター(JANIC)/ジャパン・プラットフォーム(JPF)/東京災害ボランティアネットワーク/東京都社会福祉協議会区市町村社会福祉協議会部会/東京都生活協同組合連合会/東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)＝事務局/日本青年会議所関東地区東京ブロック協議会 (50音順)

参加団体(参加実績のある団体：12団体)

：ADRA Japan/グッドネーバーズ・ジャパン/ケア・インターナショナルジャパン/国際ボランティア学生協会(IVUSA)/災害復興まちづくり支援機構/シャプラニール＝市民による海外協力の会/シャンティ国際ボランティア会(SVA)/JUON(樹恩)NETWORK/真如苑SeRV/東京YMCA/難民支援協会/NICE/ピースポート災害ボランティアセンター

＜アクションプラン推進会議設置の背景と目的＞

2013年2月～2014年3月に実施された「東京都災害ボランティアセンター(仮称)の運営等に関する検討委員会」(以下、検討委員会)は、平時から取り組むべき事項を盛り込んだ五か年の中期実行計画「アクションプラン」をまとめ、同時にプランを推進する「アクションプラン推進会議」(以下、推進会議)を設置し、多様な団体が共に取り組みを進めていくことを提案しました。

検討委員会の提案を受け、区市町村ボランティアセンターや災害ボランティア・NPO/NGO等が災害時に円滑に支援活動を行うことができる環境をあらかじめ整える目的のもと、東京ボランティア・市民活動センターが事務局を担い、検討委員会に参画していた都内のネットワーク団体が幹事団体となり、推進会議が設置されました。

推進会議は、アクションプランを具体化した取り組みを実施すると同時に、検討委員会で残った課題である協議体(団体)の立ち上げや、東京都災害ボランティアセンターのマニュアルの見直し等も検討することになっています。

東京災害ボランティアネットワーク事務局は、東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議の幹事団体の一つとして、推進会議事務局を担う東京ボランティア・市民活動センターと共に、アクションプランの推進に積極的に関わり、特にアクションプランの人材育成分野において、訓練の実施や各団体との協働プログラム企画を担当しています。

東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議が主催した「首都直下地震時の災害ボランティア活動連携訓練」では、役員団体を中心とした東災ボ参加団体の方々にもご参加いただくことができました。

■全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)準備会での取り組み

東日本大震災を受けて、今後の広域災害時を想定したボランティア・NPO/NGO等の調整機関を全国域で設立する準備が進んでいます。東災ボは都域のネットワークですが、全国域の取り組みと連動した防災・減災の取り組みを意識するため、準備会に参画し、各種取り組みを実施しました。

＜全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)準備会 定例会＞

- 2015年04月08日 準備会年間スケジュール確認/組織化に向けた取り組みについて等
- 2015年05月29日 米国NVOAD年次大会参加報告/全国大会について/災害時の情報共有について等
- 2015年06月24日 全国大会企画について/口永良部島の噴火災害について/各県の取り組みについて等
- 2015年07月22日 全国大会企画について/都道府県域との関係構築について等
- 2015年08月26日 全国大会企画について/長野県総合防災訓練、東京都総合防災訓練について等
- 2015年10月23日 全国大会企画について/内閣府との意見交換について/関東・東北豪雨水害について等
- 2015年11月27日 全国フォーラムについて/内閣府水害WGについて/関東・東北豪雨水害について等
- 2015年12月16日 全国フォーラムについて/内閣府避難所検討会について/関東・東北豪雨水害について等
- 2016年01月22日 全国フォーラムについて/内閣府水害WGについて/関東・東北豪雨水害について等
- 2016年02月05日 全国フォーラムについて/JVOADの法人化について等
- 2016年03月01日 全国フォーラムの振り返り/JVOADの法人化について等

＜災害時の連携を考える全国フォーラム＞

近い将来の発生が予測される南海トラフや首都直下などの巨大地震、また、日本各地で相次ぐ集中豪雨や噴火に効果的に対応するため、セクターを超えた支援関係者が全国から一堂に会し、「多様性を

認め合い」、「地域を尊重し」、「支援の漏れ・抜け・落ち・ムラをなくす」という目指すベクトルを共有しながら、災害時の連携のあり方を考えることを目的に、JVOAD準備会が実施した全国フォーラムに参加、協力をしました。

名称：災害時の連携を考える全国フォーラム

日時：2016年2月12日-13日

場所：国際ファッションセンターKFCホール

参加：455名(2日間)

内容：初日 オープニング/パネルディスカッション「ポスト東日本大震災～緊急期における広域連携の課題と提言～」/分科会①「心身の健康を守る最低限の避難所環境を整えるための協働」、②「複数市町村が同時被災しても機能するネットワークづくりをめざして」、③「東北の今、復興期だからこそ必要な協働のカタチ」、④「被災者支援における、行政と市民セクターの連携」、⑤「災害対応における助成のあり方」/交流会

二日目 南海トラフ地震発生シミュレーション/シンポジウム「平時における都道府県での連携の取り組みについての共有」/分科会⑥「多様性に配慮した被災者支援：課題と展望」、⑦「都道府県域で人と成果をつなぐ。平常時に行う訓練・研修のあり方」、⑧「災害に備えた市区町村域のネットワークの構築」、⑨「国内災害時の海外支援の受け入れ」/クロージング

主催：全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)準備会

共催：災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 /東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)

後援：内閣府政策統括官(防災担当)/復興庁/総務省消防庁/厚生労働省/岩手県/宮城県/福島県/東京都/社会福祉法人全国社会福祉協議会/社会福祉法人中央共同募金会/日本財団/日本生活協同組合連合会/日本赤十字社/日本労働組合総連合会/阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター/1%(ワンパーセント)クラブ

協力：ACTアライアンス/ソフトバンク株式会社(シミュレーション機材提供)/一般社団法人情報支援レスキュー隊(IT DART:シミュレーション集計アプリケーション開発・運用)/一般財団法人消防科学総合センター(災害写真データベース(広報用一部写真提供))

<全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)準備会参加団体>

国際協力NGOセンター(JANIC)/災害ボランティア活動支援プロジェクト(支援P)/震災がつなぐ全国ネットワーク/ジャパン・プラットフォーム(JPF)/全国社会福祉協議会/中央共同募金会/チーム中越/東京災害ボランティアネットワーク/日本NPOセンター/日本青年会議所/日本赤十字社/東日本大震災支援全国ネットワーク
(11団体50音順)

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)準備会は、毎月の定例会議の場を設け、設立に向けた調整状況の共有や、災害関連を含む各種全国ネットワークとの意見交換、災害が発生した際は支援情報の共有の場として機能しています。2015年度は、9月に発災した関東・東北豪雨水害では、茨城県・常総市・茨城県社協・常総市社協・市内NPO・市外NPOの六者で支援活動について協議をする場を設けたり、多様なセクターの災害時の連携と協働をテーマにした全国フォーラムを実施するなど、様々な取り組みを実施してきました。また、JVOAD準備会は、2016年6月にJVOAD設立総会を開催すると同時に、NPO法人申請をしており、東京災害ボランティアネットワークはこのJVOADに参画しています。

■その他

<第11回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練への参画>

静岡県ボランティア協会が中心となり、県や県社会福祉協議会はもとより、県内市町の社会福祉協議会や災害ボランティア団体、また企業や労働団体等と連携して11年前から取り組んでいる訓練に、企画作成ワーキンググループの一員として参画しました。

名称:第11回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練

日時:2015年12月12日~13日

場所:静岡県静岡市民文化会館

主催:静岡県労働者福祉基金協会/静岡県ボランティア協会

共催:静岡県/静岡県社会福祉協議会/静岡県内市町社会福祉協議会

協力:静岡県労働者福祉協議会/連合静岡、静岡県労働金庫

実施主体:静岡県ボランティア協会/東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会

内容:ワークショップ型訓練

参加:309名(静岡県内:215名、静岡県外:94名)

※訓練前に企画運営のためのワーキンググループ会議(静岡県内外で37名)が、実施主体となっている「東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会」内に設置され、計7回の会義を経て実施されています

第一回2015.05.20 第二回2015.06.19 第三回2015.07.15

第四回2015.09.09 第五回2015.10.21 第六回2015.11.25

第七回2016.02.10(振り返り)

<内閣府主催:防災とボランティアのつどいへの参加>

2016年2月20日に開催された内閣府主催:防災とボランティアのつどいに参加しました。

◇防災とボランティアのつどい

日時:2016年2月20日(土)

内容:パネルディスカッション「防災に関わるボランティアの裾野を広げるために」/ワークショップ「ワールドカフェ形式の意見交換」

東日本大震災を経て、災害ボランティア(防災ボランティア)の動きは大きな変化を迎えています。内閣府や、内閣府防災ボランティア活動検討会でも、南海トラフ大地震や首都直下地震など広域災害を見据え、災害ボランティアの広域連携が大きなテーマとして認識されています。東災ボも積極的に意見交換させてもらいながら具体的な取り組みつなげるように環境作りを進めていきました。

<地域や組織・団体の防災力向上に向けた取り組み>

例年と同様に、地域や組織・団体の防災力向上に向けた取り組みとして、講師派遣やプログラム提供を実施してきました。2015年度は、前述の東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議(準備会)の人材育成と連動した形で、複数の団体の取り組みを協働で実施できるように工夫をしました。

■講師・プログラム派遣、委員派遣、委託事業等

<講師派遣・プログラム派遣等>

2015.05.02	品川区立浜川中学校防災訓練「災害時、中学生に何ができるか?2015」
2015.07.16	千葉県「高校生等防災教育基礎講座」千葉県立成田西陵高校
2015.07.25	いたばし総合ボランティアセンター 2015年夏 避難所想定宿泊訓練
2015.08.15	杉並区社会福祉協議会 防災のまち歩きトレーナー養成講座(第一回)
2015.08.22	杉並区社会福祉協議会 防災のまち歩きトレーナー養成講座(第二回)
2015.09.02	千葉県「高校生等防災教育基礎講座」東海大付属望洋高校
2015.09.12	NPO法人地域の寄り合い所また明日 早朝講習会
2015.09.15	品川区立鈴ヶ森中学校「親子ふれあい事業 避難所運営ゲーム(HUG)」
2015.09.26	西東京市社会福祉協議会 災害ボランティア養成講習会
2015.10.12	荒川区社会福祉協議会 ユニバーサルウォーク
2015.10.26	伊藤忠テクノソリューションズ CSR・セキュリティ統括部 災害ボランティア講習会
2016.01.27	新宿区社会福祉協議会 災害VC関係団体意見交換会
2016.02.03	ろうきん友の会 新任役員勉強会
2016.02.20	茨城県生協連 常総市水害 サロン勉強会
2016.02.26	ジャパンソサエティ東日本大震災報告レセプション
2016.03.02	コープみらい 防災勉強会
2016.03.15	北区社会福祉協議会 住民懇談会
2016.03.24	千代田区社会福祉協議会 CMN図上訓練
2016.03.27	震災がつなぐ全国ネットワーク 災害関連死について考えるシンポジウム

<委員派遣等>

東日本大震災支援全国ネットワーク	代表世話人	山崎
東京都共同募金会配分委員会	委員派遣	上原
東京都生活協同組合連合会	理事派遣	福田
内閣府「防災ボランティア活動検討委員会」	委員派遣	福田
静岡県ボランティア協会「第10回図上訓練」ワーキンググループ	委員派遣	福田

<委託事業等>

地域や組織・団体といった「集団として」の防災力向上に向け、市民講座や研修などを開催しました

◇東京都生協連「COOP災害ボランティア養成研修(5回)」

2015.10.03	第一回 開講式/記念講演
2015.10.17	第二回 防災のまち歩き
2015.10.31	第三回 普通救命講習

2015.11.28 第四回 災害シミュレーションプログラム(HUG)

2015.12.05 第五回 災害シミュレーションプログラム(クロスロード)／修了式

◇東京ボランティア・市民活動センターの各種事業への協力

東京ボランティア・市民活動センターの各種事業には、資料提供、プログラム提供等を実施させていただき、アクションプラン推進会議はもとより都内市区VCの講座・研修で役立てていただいています。

上記の取り組み以外にも、各団体・地域が取り組む防災講座・研修にあたり、プログラムの提案・研修内容へのアドバイスなどを実施しています。

■1. 17イベントの開催

毎年1月17日前後に全国的に開催されている「1.17灯りのつどい」。東京災害ボランティアネットワークでは、2000年から取り組み続けているイベントですが、多くの団体とともに連携・協働するイベントとして定着しています。

<いま、わたしたちに、できること。2016 KOBE MEMORIAL 1.17灯りのつどい>

日 時:2016年1月16日(土) 16時00分～18時00分

場 所:東京国際フォーラム地上広場

内 容:灯りのつどい/展示/防災クイズ/煙体験ハウス/炊き出し/スクリーン映像

参加者:450名

主 催:東京災害ボランティアネットワーク

共 催:(株)東京国際フォーラム／東京ボランティア・市民活動センター

恒例となっている1.17イベントも昨年度で17回目の開催となりました。一昨年度同様にシンポジウムの開催を検討しましたが、残念ながら使用料が高額だったため、断念しています。

＜被災者支援活動(交流活動)の取り組み＞

2015年度は、9月に発災した関東・東北豪雨水害での被災者支援活動を実施しました。伊豆大島での土砂災害以来の、東災ボとしてのボランティア募集を伴う支援活動となりました。

東日本大震災被災者支援活動については、2014年度と同様に、2011～2013年まで東災ボが現地に事務局を置いて支援してきた宮城県南三陸町・登米市の仮設住宅、および地域の方々との交流活動や、都内に避難してきている広域避難者支援活動を二つの軸として取り組みを実施してきました。また、2013年10月に発災した伊豆大島との復興支援活動(交流活動)や、2005年から11年間続けている三宅島との交流活動に取り組みました。

■関東・東北豪雨水害被災者支援活動

2015年9月9日に上陸した台風18号の影響により、9月10日から11日に関東、および東北地方で記録的な大雨となり、栃木県、茨城県、宮城県を中心に大きな被害をおよぼしました。9月12日、東京ボランティア・市民活動センターの現地調査(茨城県常総市・塚町)に同行する形で東京災害ボランティアネットワーク事務局が現地調査を実施し、9月15日に緊急役員会を開催、現地支援の必要性を鑑み、個人ボランティアが減るシルバーウィーク後の10月以降の平日の支援企画を検討することが合意されました。

その後、常総市内では一般家屋と同様に公民館や集会所が被災をしてしまい、これまでおこなわれていたコミュニティでの寄り合いなどができなくなってしまい、地域での情報交換の場や支えあいの場が失われているという現状を現地関係者からお聞きし、東京災害ボランティアネットワークは、これまでの被災者支援活動の経験を活かし、常総市内でのコミュニティ支援を実施いたしました。

＜活動期間と内容＞

第一期:2015年10月27日～12月25日 被災地域でのサロン活動

第一期では、被災した地域でのコミュニティ支援として、地域での情報交換の場や支えあいの場となる場所の提供を実施してきました。活動場所は、10月-11月は、茨城県常総市内の橋本町地区で、12月からは天満町地区、若宮戸地区でもサロン活動(移動喫茶活動等)を実施することができました。(喫茶実施回数:26回 喫茶参加者数:1,125名)

第二期:2016年02月05日～03月30日 サロン活動へのフォローとアドバイス

第二期では、第一期の活動を引き継いでくださった地元の団体へのフォロー、アドバイス等を中心に、事務局で対応をさせていただきました。

＜ボランティア参加者数＞

第一期では、東災ボ関係団体の方々にボランティア募集を実施し、数多くの方々(ボランティア参加者274名)にご参加いただくことができました。

＜事前研修会＞

ボランティア募集をすると同時に、ボランティア参加希望者を対象とした事前説明会を実施します。この事前説明会で、具体的な活動の内容や注意事項について事務局から伝えてきました。可能な限り、前週か当週の事前説明会に参加してもらえるように、各団体をお願いをさせていただきました。(10月21日から12月16日まで毎週水曜日(計9回)に事前研修会を実施)

＜ご協力いただいた皆さま＞

今回の支援活動では、東災ボ役員団体、参加団体の皆さまはもとより、被災地内の地元の団体や企業の方々から協力をいただいて実施させていただきました。

たすけあいセンターJUNTOS/常総市社会福祉協議会/大楽寺/焼き鳥「鳥茂」/橋本町会/天満町会/若宮戸中部地区町会/(株)日清製粉グループ本社/味の素ゼネラルフーズ(株)/いばらきコープ/常総市更生保護女性会/茨城アジア教育基金を支える会/和菓子の万寿や/セカンドハーベスト名古屋/レスキューストックヤード/石川県穴水町の皆さん/Youth for 3.11/原田積善会 等

都外での被災者支援活動は、東日本大震災以来となりました。茨城県、栃木県、また東北地方にも被害が及び広域災害となっていたこと、最も被害が大きかった茨城県常総市は都心部から90分ほどの距離であったこと等から、被災者支援活動を緊急役員会で決定させていただきました。急遽決定した支援活動でしたが、東災ボ参加団体をはじめ、数多くの都内の団体がボランティア募集の呼びかけに応えてくださいました。

■東日本大震災被災者支援活動

2014年度と同様に、これまでの支援活動で縁を持ち続けている仮設住宅やその周辺の方々との交流活動を継続していきました。

<被災地での訪問交流活動>

2011年3月から2年間にわたり継続した東日本大震災被災者支援活動でできた縁を大切にしながら、仮設住宅でのイベントや登米市にある横山不動尊を中心とした地域のイベントを通じて訪問交流活動を実施しました。

◇横山不動尊春大祭への協力

日時:2015年4月27日(月)~29日(水)

内容:春大祭での湯茶の接待

◇横山不動尊厄流しそうめんへの協力

日時:2015年7月31日(金)~3日(月)

内容:厄流しそうめんでのかき氷の提供

◇横山幼稚園跡地仮設住宅秋祭り&横山不動尊秋の太鼓祭りへの協力

日時:2015年9月11日(金)~13日(日)

内容:参加者へのかき氷・お茶接待

※これらのプログラムについては、参加費をいただきながら実施させていただきました。

※上記以外にも、仮設住宅での食事会やミニイベント、登米市や南三陸町での取り組みに事務局が参加・協力させていただいております。

<仮設住宅自治会への寄付協力>

中央ろうきん友の会による仮設住宅自治会への寄付活動に協力し、これまで東京災害ボランティアネットワークが関わりを持ってきた下記の6つの仮設住宅自治会と、東災ボ役員団体であるSVAを通じて宮城県気仙沼市内の3つの仮設住宅自治会、および階上地区まちづくり協議会を紹介させていただき、2015年5月18-19日に現地での贈呈式を開催しました。

登米市南方第一仮設住宅自治会

登米市若者総合体育館仮設住宅自治会

登米市横山第一第二仮設住宅自治会

登米市南方第二仮設住宅自治会

登米市横山幼稚園跡地仮設住宅自治会

南三陸町戸倉中学校仮設住宅自治会

気仙沼市大谷中仮設住宅親睦会
はまなす台仮設住宅親睦会

気仙沼市天ヶ沢仮設住宅親睦会
階上地区まちづくり協議会

<東日本大震災支援全国ネットワークへの参画>

東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)の世話人団体の一つとして、JCNの取り組みに参画、および参加・協力しました。特に広域避難者支援活動においては、都内での取り組みに対し、広域避難者支援連絡会in東京として積極的に参画すると同時に、都内で実施された「Walk with 東北」プロジェクトや風化防止イベント(「東北これから会議」等)に参加・協力しました。

- ◇世話人団体定例会 :2ヶ月に一度開催
- ◇広域避難者支援活動 :避難者支援の総合窓口・コーディネート/避難者支援の場づくり 等
- ◇Walk with 東北キャンペーン
- ◇東北応援ビレッジ(2015年5月開催)

2015年度は、2013、2014年度と同様に被災地「支援」活動というよりも、被災地との交流活動を実施してきました。なお、2013年度から実施している「中央ろうきん友の会」の寄付活動は、登米市や南三陸町だけではなく、気仙沼市への支援にもつながることができました。その際には、東災ボ副代表団体であり、気仙沼市内で支援活動を継続していたシャンティ国際ボランティア会の協力を得ながら交流も深めることができました。

■広域避難者支援活動(広域避難者支援連絡会in東京での取り組み)

広域避難者の課題は、東日本大震災から5年を経過した今、非常に個別化(家庭事情等)し見えにくく、深刻化(健康面への影響等)し、ボランティア活動だけでは支援しにくくなってきているといえます。また、2017年3月には自主避難者への住宅供与期間が終わることが発表され、広域避難者を取り巻く環境はますます厳しくなっています。そんな中、東京災害ボランティアネットワークは、「広域避難者支援連絡会in東京」の一員として、広域避難によってつながりが切れてしまった当事者の方々のつながりを再構築すると同時に、支援団体の方々と新たなつながりを構築できる場づくりを中心とした支援活動を実施してきました。

<定例会議の開催>

連絡会参加団体や関係団体が情報交換する場として、また連絡会企画の検討をする場として、2015年度は2015年4月から2016年3月まで、毎月の定例会議を開催しました。

- 第01回定例会 2015.04.08 2014年度事業・決算報告、/015年度事業計画について 等
- 第02回定例会 2015.05.21 当事者団体協働事業について/総会について 等
- 第03回定例会 2015.06.11 当事者団体協働事業について/第9回MTGin東京について 等
- 第04回定例会 2015.07.09 第9回MTGin東京について/第10回MTGin東京について 等
- 第05回定例会 2015.08.06 ふれあいFESについて/第9回MTGin東京振り返り 等
- 第06回定例会 2015.09.10 ふれあいFESについて/第10回MTGin東京について 等
- 第07回定例会 2015.10.08 ふれあいFESについて/第10回MTGin東京振り返り 等
- 第08回定例会 2015.11.12ふれあいFES振り返り/お正月準備の会について 等
- 第09回定例会 2015.12.10 お正月準備の会について/第11回MTGin東京について 等
- 第10回定例会 2016.01.14 お正月準備の会報告/第11回MTGin東京について 等
- 第11回定例会 2016.02.02 第11回MTGin東京報告/第12回MTGin東京について/次年度について 等
- 第12回定例会 2016.03.10 第12回MTGin東京報告/次年度について 等

(※)広域避難者支援連絡会は、2013年1月の準備会を経て、2013年4月に発足していますが、組織的な体制を持たずに活動してきましたが、2014年6月に組織体制を確立しました。

<総会の開催>

日時:2015年06月11日 10:00~10:30
場所:東京ボランティア・市民活動センター会議室
議題:2014年度事業報告/2014年度決算報告
2015年度事業計画/2015年度予算計画/2015年度役員選任に関する事項

<広域避難者支援ミーティングin東京の開催>

広域避難者支援活動を実施している団体や避難当事者団体の交流・連携を促すための情報交換の場、様々な支援手法・アイデアを共有し支援の充実を図る場として、広域避難者支援ミーティングin東京(MTGin東京(※))を開催しました。

- ◇第09回MTGin 東京 日時:2015年7月16日(木) 場所:全水道会館会議室
内容:避難者支援に関するさまざまな制度について/住宅問題について
参加:当事者団体12団体、オブザーバー含め計52名
※第9回MTGin東京は、当事者団体を中心としたクローズドMTGとして開催
- ◇第10回MTGin東京 日時:2015年9月18日(金) 場所:全水道会館会議室
内容:7/16クローズドMTGの報告/グループワーク
参加:56団体91名
- ◇第11回MTGin東京 日時:2016年1月26日(火) 場所:東雲住宅
内容:参加した当事者団体の取り組み報告/広域交流会報告
参加:当事者団体5団体、オブザーバーを含め計39名
※第11回MTGin東京は、当事者団体を中心としたクローズド会議として実施
- ◇第12回MTGin東京 日時:2016年3月3日(木) 場所:全水道会館会議室
内容:避難者からの話題提供/関東圏の支援団体の取り組み状況報告
参加:53団体84名

(※)第1回MTGin東京は2013年3月に、第2~4回のMTGin東京は2013年度に、第5~8回のMTGin東京は2014年度に開催しています。

<当事者団体との協働事業の実施>

避難当事者団体同士のネットワーク作りをさらに進めるため、この間連携している都内にある12の当事者団体と協働して具体的な交流プログラムを実施しました。なお、これらの事業は、当事者団体と連絡会で実行委員会を設置し、連絡会が実行委員会事務局を担いました。

- ◇避難者と支援者による「ふれあいフェスティバル」
日時:2015年10月24日(土) 10:30~15:30
場所:都立木場公園
内容:都内の当事者団体同士の交流
参加:462名(避難者:286名 支援者:176名) ※受付で確認できた方のみ

- ◇お正月準備の会in町田
日時:2015年12月26日(土) 10時30分~14時00分

場所:町田シバヒロ

内容:お餅つき/浪江焼きそばの提供/お楽しみ抽選会 等

参加:328名(避難者:213名 支援者:115名)

※これら当事者団体との協働事業を実施するにあたり、当事者団体と支援団体で実行委員会を設置し、準備会、下見会を合わせ計9回の実行委員会が開催されています。

準備会2015.05.14 第一回2015.06.18 第二回2015.07.16 第三回2015.07.22

第四回2015.08.26 第五回2015.09.11 第六回2015.10.07 第七回2015.11.19

(下見会2015.10.10)

<情報収集と発信>

メールマガジンの配信(配信者:95名 配信回数:20回)やホームページでの情報発信を実施しました。

※広域避難者支援連絡会in東京ホームページ <http://kouikihinan-tokyo.jimdo.com/>

<その他>

広域避難者支援連絡会in東京のメンバーとして、東災ポ事務局は、当事者団体の活動やJCNの活動等、下記の取り組みについても参加しました

2015.05.04 むさしのスマイル「避難ママと子どものお泊り交流会」

2015.07.14 JCN2015年度ネットワーク推進会議

2015.08.28 むさしのスマイル「バスハイク交流会」

2015.11.05 足立新田ふるさと会「バスハイク交流会」

※広域避難者支援連絡会in東京(11団体)

(構成団体)荒川区社会福祉協議会/いたばし総合ボランティアセンター/公益財団法人さわやか福祉財団/災害復興まちづくり支援機構/全労済(全国労働者共済生活協同組合連合会)/中央労働金庫/東京災害ボランティアネットワーク/東京都生活協同組合連合会/東京ボランティア・市民活動センター/東京労働者福祉協議会/連合東京 (50音順)

なお、2016年度から東災ポ参加団体でもある「金光教首都圏災害ボランティア支援機構」が入会しています。

広域避難者支援活動は、三宅島噴火災害時の全島避難支援活動の経験をいかし、当事者団体との連携を深めながら実施してきました。2015年度は、当事者と支援者によって企画された「ふれあいフェスティバル」が開催されるなど、東日本大震災から5年が経過していますが、常に当事者の方々と協働で活動することを心がけています。

■伊豆大島復興支援活動(大島復興交流プログラムの実施)

伊豆大島支援活動は、東京都災害ボランティアセンターの一員として東災ポも活動を実施してきました。2014年3月からは、「大島復興支援東京ボランティアセンター」の構成団体として、大島社会福祉協議会をはじめとする島民の方々や関係団体と共に復興交流プログラムを実施しました。

<大島復興交流プログラム>

日時:2015年10月30日(金)~11月01日(日) 二泊三日(船中泊一泊含む)

場所:伊豆大島(福祉祭り会場、および被災地域等)

内容:初 日:福祉祭り(大島社協主催)のお手伝い/島民との交流

二日目:町役場職員から復興に向けた町役場の取り組み説明/被災地域の散策(島民による語り部)等

参加:島外参加者20名(関係団体を通じての募集で公募はなし)

主催:大島復興支援東京ボランティアセンター

(構成団体)大島社会福祉協議会、国際協力 NGO センター(JANIC)、シャンティ国際ボランティア会(SVA)、東京ボランティア・市民活動センター、東京 YMCA、日本青年会議所関東地区東京ブロック協議会、ピースポート災害ボランティアセンター、東京災害ボランティアネットワーク

協力:ジャパン・プラットフォーム、東海汽船、グローバル・ネイチャー・クラブ、大島町復興推進室、愛らんどセンター御神火温泉

<大島復興支援東京ボランティアセンター定例会(構成団体打ち合わせ会議)>

大島復興支援東京ボランティアセンターでは、定例の会義を計4回開催し、構成団体間の情報交換や前述の大島復興交流プログラムの企画運営を実施しました。

第1回2015.06.05 第2回2015.07.30 第3回2015.08.19 第4回2015.12.16

2014年10月に土砂災害から2年を迎えた伊豆大島との交流プログラムを実施しました。福祉まつりの実行委員をされている島民の方々も東京からの参加者を非常に楽しみにしてくださっていると同時に、頼りにもしているようです。今後も三宅島や東日本大震災の被災地と同様に、支援活動から交流活動にシフトしています。

■みやげじま<風の家>を通じた三宅島交流活動

2005年の年末から始まったこの「三宅島年末お掃除ボランティア活動」も2015年で11回目となりました。2005年2月から8月まで約半年間におよんだ帰島支援ボランティア活動。多くのボランティアの方々に参加していただき、支援する者と支援される者の壁を超えた交流を持つことができました。また、2005年10月に、復興支援として、島民の加齢と島の高齢化課題に取り組む試みとして島民自身が運営している「みやげじま<風の家>」が2015年10月で10年を迎えたこともあり、「みやげじま<風の家>10周年のつどい」も開催されました。

<みやげじま風の家 10周年のつどい>

日 時: 2015年10月03日(土)

場 所: 三宅島(みやげじま<風の家>内)

内 容: 餅つき会 10年を振り返る会 等

参 加: 14名(東京からの参加者のみ)

主 催: みやげじま<風の家>

<三宅島年末お掃除ボランティア>

日 時: 2015年12月18日(金)~12月20日(日):25名

場 所: 三宅島

内 容: お掃除ボランティア/島民ボランティアによる島内一周視察

参 加: 27名(東京からのボランティア参加者のみ)

主 催: みやげじま<風の家>/東京災害ボランティアネットワーク

みやげじまく風の家>が10年を迎えました。東京からは東災ボ役員団体を中心に、風の家建物を所有している日本建築学会の方も含め14名の方々が来島し、<風の家>の10年を振り返りました。このつどいには、桜田村長をはじめ、三宅中学校の生徒など島民も100名以上来所し、風の家が島民の方々から愛されていることを感じました。

<事務局の移転>

東災ボ事務局を設置させていただいていた東京都生協連会館の改築に伴い、東災ボ事務局は2014年12月より一時移転させていただいております。新会館完成は2016年10月を予定しております。東京都生協連のご厚意により、事務局スペースを東京都生協連会館内に確保いただけることとなり、2016年10月中旬頃に事務局を移転することになります。

現住所(～2016年10月中旬ごろ)

〒169-0074 新宿区北新宿4-8-16 北新宿君嶋ビル8階

新住所(2016年10月中旬ごろ～)

〒164-0011 中野区中央5-41-18 東京都生協連会館3階

<情報発信>

これまで滞っていた東災ボTIMESの定期発行を目指していましたが、常駐の事務局員が1人となり、2016年度は発行することができませんでした。